中課題「地域資源管理」研究会（第５回）を開催（報告）

地域資源工学研究領域 資源評価ユニット特別研究員
大塚芳嵩

農研機構中長期計画第４期（平成 28～32 年度）における中課題「農村地域の構造や環境等の変化に対応した地域資源の管理・利用の高度化技術の開発（地域資源管理）」では、中課題を構成する小課題の研究課題毎に、これまで４回の研究会を実施し、参加する研究者の情報共有と連携強化を図ってきました。

12 月 13 日（火）に開催した第５回研究会は２部構成で実施しました。　第１部では、小課題に関連する研究会の５回目として、地域資源の有効活用に関する意見交換、及び中課題の出口戦略や社会実装に向けた包括的な議論を行いました。また、第２部では、これまで開催された中課題研究会の総括となる議論を行いました。

第１部では、外部講師から、「エネルギーと地域経済（岡山大学中村教授）」、「土地改良区における地域資源の利活用に関する事例（立梅用水土地改良区高橋事務局長）」の２課題の話題提供をいただきました。続いて、関連する研究課題を担当する農村工学研究部門の研究者から、土地改良区との接点（遠藤上級研究員）とバイオマスを利用した地域資源活性化（國光ユニット長）について話題を提供し、質疑と議論を行いました。

第２部の「中課題最終目標に関する議論」では、中課題責任者から主旨説明の後、中課題の最終目標の設定とそのキャッチフレーズの選定を行いました。中課題関係者一同による議論の結果、本中課題のキャッチフレーズとして、①内外の意思決定者をターゲットとすること、②中課題全体の理念をあらわすことを重視して以下のキャッチフレーズが関係者による議論をもとに選定されました。

「農村を元気にする水土里資源の高度活用ツールボックス」

このキャッチフレーズは、本中課題に含まれる研究分野と技術の多様性を「ツールボックス」、様々な地域資源を「水土里資源」のキーワードでそれぞれ端的に表現しています。

また、本中課題の最終目標である“出口戦略”と“社会実装”に向けた全体方針として、①個々の小課題が社会実装を目指すとともに、②中課題として小課題をまたぐ総合的な課題により社会実装を目指すことが確認されました。

写真-1 第 1 部:中村教授の話題提供

写真-2 第 1 部:高橋事務局長の話題提供

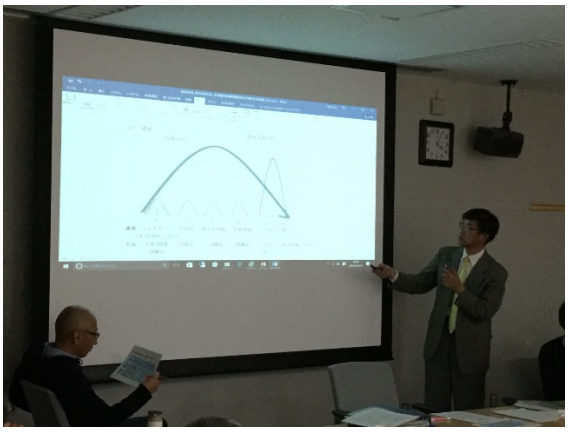

写真-3 第 2 部:中課題の方向性の提案

写真-4 第 2 部:キャッチフレーズの議論